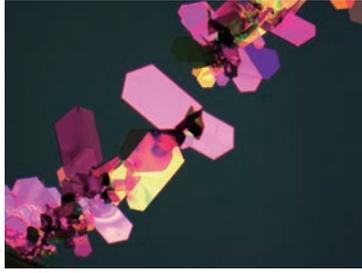




ICR Photo Contest for the 100th Anniversary

「ICR Photo Contest for the 100th Anniversary」を令和7年1月～6月にかけて開催しました。今回は2026年の化学研究所100周年に先立ち、化研の今と昔の写真を広く募集しました。

「化研の今」部門



最優秀賞
偏光のオーケストラ



優秀賞1
化研に映える紅葉



優秀賞2
碧水舎

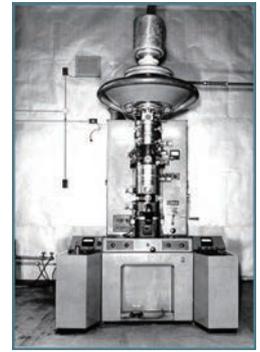
「化研の昔」部門



最優秀賞
Lawrence 博士の
蹴上サイクロトロン訪問



優秀賞1
Bednorz 博士と
Müller 博士の化研訪問



優秀賞2
電子顕微鏡の昔
(Shimadzu 300kV, 1957)

Kinani!

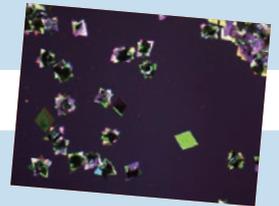
大学院生紹介
JOIN US, ICR!



物質創製化学研究系 有機元素化学(山田研究室)
博士後期課程2年 宮崎 和哉さん

「ICR Photo Contest for the 100th Anniversary」において最優秀賞作品「偏光のオーケストラ」を撮影した宮崎さん(山田研究室)をご紹介します。実は宮崎さんは前回の「ICR Daily Photo Contest 2023」でも最優秀賞を受賞しており、2回連続の快挙となりました。今回は受賞作品や研究についてお話を伺いました。

「ICR Daily Photo Contest 2023」で最優秀賞を受賞した作品
タイトル:「宇宙」



このたびフォトコンテストで最優秀賞をいただき、誠にありがとうございました。2回連続でいただけたことを、大変光栄に思います。実は受賞作は、実験中に偶然得られた「失敗結果」を撮影したものです。

私の研究テーマは、有機半導体の結晶構造と電荷輸送特性の関係を明らかにし、より高性能な有機デバイス(図)の実現へと結びつける分子設計の指針を探るこ

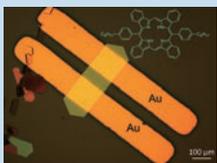


図:実際の有機半導体デバイス

とです。分子の化学構造やパッキング構造のわずかな違いが大きな性能差を生むため、その仕組みを解き明かすことに挑戦しています。

休日には宇治川周辺を散歩したり、夜にはうなぎ釣りを楽しんでいます。うなぎは夜行性のため、日中の研究と無理なく両立できる点も魅力です。研究と自然が調和する、自然豊かな化研だからこそできる研究生活だと感じています。



宇治川で釣ったうなぎをお風呂で泥抜き中

普段の研究風景



有機トランジスタの性能測定の様子